

令和四年度採用 中学校専門 国語

志願種別	
受験番号	

二 次の文章を読んで、後の【二一】～【二六】の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

【二一】本文中の—— a ～ c の片仮名を漢字に改め、これと同じ漢字を用いた語句の組合せとして正しいものを、後の①～⑤の中から一つ選べ。

a {  
 ア コウマンな態度をとる  
 イ 委員長のコウホに上がる  
 ウ 審査結果にコウテイする

b {  
 ア 大理石のチヨウゾウを置く  
 イ 寺院の鐘をチヨウゾウする  
 ウ 人気の初版本をゾウホする

c {  
 ア フンガイしきりの様子である  
 イ 本会議の全体をガイカツする  
 ウ 教育の歴史をガイキョウする

- |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | a | ア | b | ウ | c | ア |
| ② | a | ア | b | ウ | c | ウ |
| ③ | a | イ | b | イ | c | ウ |
| ④ | a | イ | b | ア | c | イ |
| ⑤ | a | ウ | b | ア | c | イ |

【二三】本文中の「ア」～「エ」に入る言葉の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- |   |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| ① | ア | つまり | イ | しかし | ウ | だから | エ | つまり |
| ② | ア | つまり | イ | また  | ウ | そして | エ | しかも |
| ③ | ア | つまり | イ | しかし | ウ | そして | エ | しかも |
| ④ | ア | そして | イ | また  | ウ | そして | エ | つまり |
| ⑤ | ア | そして | イ | しかし | ウ | だから | エ | つまり |

【三三】次の文は、本文中の(Ⅰ)～(Ⅴ)のどの段落の始めに入るか。最も適切なものを、後の①～⑤の中から一つ選べ。

だが上述したように、思考や経験の時点でそれらが実況放送的に言語化されることは稀である。

- ① (Ⅰ)      ② (Ⅱ)      ③ (Ⅲ)      ④ (Ⅳ)      ⑤ (Ⅴ)

【一四】 傍線部 (A) 「日常的な『思い』が見落される理由」とあるが、この言葉が示す内容に当てはまらないものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 日常的な「思い」は、殆んど言語化されずに一過してしまうので把握し難い上に、主題が些細なことであるから。
- ② 数学の証明等の思考は言語化すること自体が「証明」なのであり、難しい思案事は言語化されていることが多いから。
- ③ 街を歩いている時、次々と展開する知覚風景を言語化することはなく、人間の経験一般が言語化されることが稀だから。
- ④ 自分の動作を一々言語化することはなく、電柱や看板、雑草を見て、ふと「思った」ことを言語的報告としないから。
- ⑤ 確認のための言語化はエラー防止のためであるが、経験の現場で言語化するという経験の実況放送はまずないから。

【一五】 傍線部 (B) 「成心」の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 他人に服さず、ともすれば倒そうとする心
- ② あらかじめ、こうだろうと思い定めている心
- ③ 一つの物事だけに心を集中すること
- ④ ある物事に強く心をひかれること
- ⑤ わだかまりを持たない心

【一六】 本文に書かれていることとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 言語とは自分が自ら知覚できない状況についての情報をやりとりするものであるため、自分の経験による実況放送以外は的はずれである。
- ② 言語化されていない生のままの経験を、言葉で「表現」するのが言語化だという誤解があるため、言語化すること自体が「証明」になるのである。
- ③ 言葉以前の経験は全く無定形な経験、無形の思考でしかないため、自問することで経験や思考の一切を言語化することが不可能である。
- ④ 或る経験や思考を憶い出す、ということはその経験や思考を再体験することではないため、言語化されることは稀というのは事実誤認である。
- ⑤ 想起の観察は当然思考経験にも適用されるため、思考の最中は言葉に乏しく黙しがちだが、思考は言葉になるということである。

二

【一七】 ことわざや慣用句について、( )内にその本来の意味が示されているものとして正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 犬馬の勞 (人のために力を尽くして働くこと)
- ② 固唾を呑む (悲しみや驚きなどで一瞬息を止めること)
- ③ 頭が下がる (負い目があつて対等にもるまえないこと)
- ④ 情けは人のためならず (情けをかけると相手のためにならないこと)
- ⑤ 他山の石 (他人のよい行いを手本とすること)

三

【一八】 次のA～Eについて、作品の書き出しと、作者名と作品名の組合せが正しいものを、後の①～⑤の中から一つ選べ。

A 或曇つた冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の隅に腰を下して……

作者名 太宰 治 作品名 斜陽

B 親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている。

作者名 夏目 漱石 作品名 坊っちゃん

C えたいの知れない不吉な塊が私の心を始終おさえつけていた。

作者名 梶井 基次郎 作品名 檸檬

D 自分は今ここに自分の第二の母といつている初恋の女のことを断片的に……

作者名 川端 康成 作品名 初恋

E 石炭をば早や積み果てつ。中等室の卓のほどりはいと静にて……

作者名 森 鷗外 作品名 舞姫

- ① A A B D
- ② A A C D
- ③ A C C E
- ④ B B C E
- ⑤ B D E E

四 「中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 国語編(平成二十九年七月 文部科学省)」  
に示されている内容について、次の【一九】【二〇】の問いに答えよ。

【一九】 次は、「第三章 各学年の内容 第三節 第三学年 二(思考力、判断力、表現力等) C 読むこと」の一部を抜き出したものである。A、B、C、Dに入る言葉をa、b、c、dから選択し、その正しい組合せを、後の①～⑤の中から一つ選べ。

(一) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 文章の種類を踏まえて、Aなどを捉えること。

イ 文章をBに読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。

ウ Cについて評価すること。

エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、Dこと。

【語群】

a 論理や物語の展開の仕方

b 主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方

c 批判的

d 目的

e 文章の構成や論理の展開、表現の効果

f 文章の構成や論理の展開、表現の仕方

g 人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつ

h まとめた意見や感想を共有し、自分の考えを確立する

- |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | A | a | B | c | C | e | D | g |
| ② | A | a | B | c | C | f | D | g |
| ③ | A | a | B | d | C | e | D | h |
| ④ | A | b | B | c | C | e | D | g |
| ⑤ | A | b | B | d | C | f | D | h |

【二〇】 次は、「第四章 指導計画の作成と内容の取扱い ― 指導計画作成上の配慮事項」の一部を抜き出したものである。A、B、C、D、Eに入る言葉をa～jから選択し、その正しい組合せを、後の①～⑤の中から一つ選べ。

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも一単位時間の授業の中で全てが表現されるものではない。単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりしてA場面をどこに設定するか、対話によってB場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められる。また、生徒や学校の実態に応じ、Cが重要であり、単元のまとまりを見通した学習を行うに当たり基礎となる知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、Dなどの工夫を重ね、確実な習得を図ることが必要である。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」を、Eを通して、より質の高い深い学びにつなげることが重要である。

- 【語群】
- a 学習した内容の理解を深めることができる
  - b 自身の学びや変容を自覚できる
  - c 自分の考えなどを広げたり深めたりする
  - d 相手の考えなどを認識したり尊重したりする
  - e 一つの学習活動に特化して集中して取り組むこと
  - f 多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくこと
  - g 生徒の主体性を引き出す
  - h 生徒の理解度を深める
  - i 習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせること
  - j 理解・活用・表現という学びの形態を明確にした設定

- ① A a B c C e D g E j
- ② A a B d C e D h E i
- ③ A b B d C f e D h E i j
- ④ A b B d C e D g E j
- ⑤ A b B c C f e D g E i

【五】 次の文章は、鎌倉幕府の滅亡の経緯から室町幕府二代将軍義隆の死まで、約五〇年にわたる南北朝の争乱について描かれた「太平記」の一節である。これを読んで、後の【二二】～【二六】の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。



【二二】 二重傍線部ア～エの助動詞の種類を組合せとして最も適切なものを、後の①～⑤の中から一つ選べ。

a	完了	b	尊敬	c	可能
d	推量	e	打消	f	過去

- ① ア d            イ c            ウ a            エ a
- ② ア d            イ c            ウ a            エ e
- ③ ア d            イ d            ウ f            エ a
- ④ ア b            イ c            ウ f            エ e
- ⑤ ア b            イ d            ウ f            エ a

【二三】 傍線部(A)「今はかくと勇み悦んで」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 京勢の兵たちが、あちこちから集まってきたのでもう心配ないと勇み立って喜んだ。
- ② 武田・小笠原の兵が味方となったので、今更ながら安心してつづき勇気がでたと喜んだ。
- ③ 隠れていた甲斐源氏の兵たちが七千余りに増えたので、もう大丈夫だと喜び勇んだ。
- ④ 官軍どもが、あちこちから馳せ参じたので、今はこうするしかないと思勇気をもった。
- ⑤ 義貞が「よき敵だ」と言った相手を今となつては降参させることができたと思喜んだ。

【二四】 波線部(Ⅰ)(Ⅱ)(Ⅲ)のそれぞれの主体を組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① (Ⅰ) 武田・小笠原の物ども            (Ⅱ) さがる勢            (Ⅲ) 京勢
- ② (Ⅰ) 官軍            (Ⅱ) 官軍            (Ⅲ) 諸軍勢
- ③ (Ⅰ) 官軍            (Ⅱ) 大将義貞            (Ⅲ) 名張八郎
- ④ (Ⅰ) 遮る敵            (Ⅱ) 京勢            (Ⅲ) 名張八郎
- ⑤ (Ⅰ) 武田・小笠原の物ども            (Ⅱ) 京勢            (Ⅲ) 官軍

【二四】 傍線部(B)「浮橋をぞかけたりける」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 浮橋が増水した川の流れでも十分安全と分かったので急いで丈夫な浮橋をかけた。
- ② 周囲にいた家来が義貞に橋を渡ることを勧めたので、浮橋をかけることになった。
- ③ 敵が大勢の家来を引き連れて追いついて来る可能性もあり、急いで浮橋をかけた。
- ④ 長旅で馬が疲れていて川を渡れそうもなかったので、浮橋をかけることになった。
- ⑤ 後から来る敵のために住家を壊す必要があったので、浮橋をかけることになった。

【二五】 傍線部(C)「野心の物やしたりけん捨てたりける」とあるが、その解釈として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 野心をもった証拠となる物を隠すために、浮橋をつなぐ綱を切り捨てた。
- ② 橋を渡る中で、野心がなかったかを問いただした結果、綱を切り捨てた。
- ③ 義貞に、野心をもっていたことを事前に知っていたのかと、叱責された。
- ④ 何かたくらみを示す物があったのか、急に浮橋をつなぐ綱を切り捨てた。
- ⑤ 誰かたくらみをもつ者がやったのか、浮橋をつなぐ綱が切り捨てられた。

【二六】 「太平記」と同じジャンルに属する古典作品の組合せとして最も適切なものを、後の①～⑤の中から選べ。

ア 増鏡	イ 宇治拾遺物語	ウ 保元物語	エ 海道記
オ 風姿花伝	カ 歎異抄	キ 義経記	ク 十訓抄

- ① ア・カ
- ② イ・オ
- ③ ウ・キ
- ④ ア・エ
- ⑤ キ・ク

六 次の文章を読んで、後の【二七】～【三〇】の問いに答えよ。なお、設問の都合上訓点を省略したところがある。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

【二七】 傍線部（A）「始臣之解牛之時、所見無非全牛者」の読み方として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① はじめしんのうしをとくるとき、みるどころぜんぎゆうにあらざるものなし。
- ② はじめしんのうしをとくるとき、ぜんぎゆうをみるものあらざるどころなし。
- ③ はじめしんのこれのうしをとくとき、みるどころなくぜんぎゆうにあらざるものなり。
- ④ はじめしんのこれのうしをとくとき、みるどころぜんぎゆうにあらざるものなし。
- ⑤ はじめしんのうしをとくるとき、みるどころなくぜんぎゆうにあらざるものなり。

【二八】 傍線部（ア）～（オ）の助字のうち、逆接の意味を表しているものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① ア      ② イ      ③ ウ      ④ エ      ⑤ オ

【二九】 傍線部(B)「刀刃若新発於硯」とあるが、その理由の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 肉を切り裂くため毎年刀を取り換えているから。
- ② 骨を切り折るため毎月刀を取り換えているから。
- ③ 十九年間、毎日欠かさず砥石で刀を研いでいるから。
- ④ 牛の関節のすき間に刃先を入れて肉を切り裂くから。
- ⑤ 厚みのない刀の刃が入るような余地がどこにもないから。

【三〇】 傍線部(C)「得養生焉」とあるが、文惠君が得たものの説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 難しい技術ほど、よりよい道具を手に入れることで、さらに技術が高まっていくこと。
- ② 無心のうちに自然に接することができれば、技術では不可能なことも可能となること。
- ③ 難しい技術ほど、できることを継続して積み重ねていくことが、より必要であること。
- ④ 技術を身に付けるためには、よい師匠の下で、長い年月修行しなければならないこと。
- ⑤ 心を無にし、自然の中で生きていけば、家族を養い幸せに生活することができること。



令和4年度採用 岐阜県公立学校教員採用選考試験  
第1次選考試験 中学校専門 国語

問題番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正解	④	①	③	②	②	⑤	①	④	②	⑤

問題番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正解	③	①	⑤	④	⑤	③	①	③	④	②

